

# 高浜サッカーの歴史 (第1世代～第5世代)

世代	年 月	沿 革		スコア	指導者	代表選手
第1	1948(S23) 12	愛知県中学生サッカー大会	優 勝	高浜 6-0 古知野	神谷普山	森 武
	1949'(S24) 6	愛知県中学生サッカー大会	優 勝	高浜 2-0 豊川	神谷普山	内藤耕造
	1950(S25) 10	国民体育大会	優 勝	高浜 0-0 刈谷南	神谷普山	三浦利忠
	1951(S26) 12	愛知県中学生サッカー大会	優 勝	高浜 0-0 拳母	神谷普山	神谷瞬夫
	1952(S27) 12	愛知県中学生サッカー大会	優 勝	高浜 1-0 刈谷南	神谷普山	吉岡
	1954(S29)	愛知県中学生サッカー大会	3 位		神谷普山	神谷利郎
第2	1958(S33) 11	愛知県中学生サッカー大会	優 勝	高浜 2-1 刈谷南	神谷普山	野々山正人
	1960(S35)	愛知県中学生サッカー大会	準優勝	刈谷南 高浜	不明	中村吉夫
	1961(S36)	愛知県中学生サッカー大会	準優勝	大府 高浜	不明	神谷保彦
	1965(S40) 8	愛知県中学生サッカー大会	優 勝	高浜 2-1 犬山南	横山勝利	杉浦泰秀
第3	1970(S45) 4	野々山正人 小学生を対象に「高浜サッカースクール」を創設			野々山正人	横山則夫
	1971(S46) 8	愛知県中学生サッカー大会	優 勝	高浜 1-0 日比野	横山勝利	内藤文彦 岩月輝也 神谷昌彦
	1973(S48)	愛知県中学生サッカー大会	3 位		横山勝利	柴田昌義
	1974(S49)	愛知県中学生サッカー大会	3 位		横山勝利	横山則夫
	1975(S50)	東海中学生サッカー大会	3 位		横山勝利	岩月瑞光
	1976(S51)	愛知県中学生サッカー大会	3 位		横山勝利	森島勉 森島修 四方堂一治
第4	1979(S54) 4	中学生部 (ジュニアユース発足)			大林利達	芝田啓二
	1980(S55) 10	第1回高浜クラブ杯全国中学生サッカー大会 開催				門脇博志
	12	愛知小学生大会	優 勝	高浜 1-0 千種	角谷圭佑	内藤紀之
	1981(S56) 7	愛知県クラブ中学生選手権	優 勝	高浜 3-2 千種	大林利達	深谷信之
	8	第2回高浜クラブ杯	優 勝	高浜 1-0 枚方		深谷英志
	1985(S60) 9	愛知県クラブ中学生選手権	優 勝		大林利達	岩城寛之
	1986(S61) 8	第7回高浜クラブ杯	準優勝	愛知 1-0 高浜	大林利達	加藤正浩
第1回全日本クラブユース選手権		東海代表		鈴木竜宏		
愛知県中学生サッカー選手権		準優勝	豊正 2-0 高浜	中村稜志		
第5	1988(S63) 8	第1回高浜クラブ杯中学1年大会 開催			大林利達	江川直文
	8	第3回全日本クラブユース選手権	東海代表		大林利達	中村 彰
	9	第2回コカコーラカップ	3 位			新居 学
	1989(H1) 8	第4回全日本クラブユース選手権	東海代表		大林利達	杉本幸倫
	12	第1回全国ジュニアユース選手権	3 位			杉田正博
	1990(H2) 8	テレパカップ	優 勝	高浜 0-0 神奈川	大林利達	神谷直人
	1991(H3) 9	第5回コカコーラカップ	3 位		大林利達	中村光伸
	1992(H4) 8	第7回全日本クラブユース選手権	東海代表		大林利達	石川隆之

※黒字は高浜中時代、緑字は高浜フットボールクラブ時代、の主な歴史

卒業生のその後

年 月	沿 革		高 校	代表選手
1954(S29)	第 9 回国民体育大会 高校生の部	優勝	刈谷	
	第 33 回全国高校サッカー選手権大会	準優勝	刈谷	
1955(S30)	第 10 回国民体育大会 高校生の部	優勝	刈谷	吉岡
1956(S31)	第 35 回全国高校サッカー選手権大会	2 回戦	刈谷	
1957(S32)	第 36 回全国高校サッカー選手権大会	準優勝	刈谷	神谷利郎
1960(S35)	第 39 回全国高校サッカー選手権大会	出場	豊田西	野々山正人
1961(S36)	第 40 回全国高校サッカー選手権大会	出場	刈谷	
1962(S37)	第 41 回全国高校サッカー選手権大会	出場	刈谷	
1963(S38)	第 42 回全国高校サッカー選手権大会	3 位	豊田西	
1964(S39)	第 43 回全国高校サッカー選手権大会	出場	豊田西	
1965(S40)	第 44 回全国高校サッカー選手権大会	出場	刈谷	
1966(S41)	第 1 回全国高等学校総合体育大会（青森）	出場	豊田西	
	第 45 回全国高校サッカー選手権大会	出場	刈谷	
1967(S42)	第 2 回全国高等学校総合体育大会（福井）	出場	刈谷	杉浦泰秀
	第 46 回全国高校サッカー選手権大会	ベスト 8	刈谷	杉浦泰秀
1978(S53)	第 13 回全国高等学校総合体育大会（福島）	出場	岡崎城西	森島 勤
1979(S54)	第 14 回全国高等学校総合体育大会（滋賀）	ベスト 8	岡崎城西	森島 修
1980(S55)	第 15 回全国高等学校総合体育大会（愛媛）	ベスト 8	岡崎城西	森島 勤 森島 修
	第 55 回全国高校サッカー選手権大会	3 位	岡崎城西	田村恵久 小林俊久 四方堂一治
1981(S56)	第 60 回全国高校サッカー選手権大会	2 回戦	岡崎城西	田村恵久 小林俊久 四方堂一治
1982(S57)	第 6 回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント	準優勝	愛知学院	森島 勤
1984(S59)	第 8 回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント	3 位	愛知学院	森島 修
	第 33 回全日本大学サッカー選手権大会	3 位	愛知学院	
1985(S60)	第 20 回全国高等学校総合体育大会（石川）	出場	愛知	
1986(S61)	第 65 回全国高校サッカー選手権大会	出場	愛知	
1987(S62)	第 66 回全国高校サッカー選手権大会	出場	岡崎城西	岩城寛之
1988(S63)	第 23 回全国高等学校総合体育大会（兵庫）	2 回戦	刈谷北	鈴木竜宏
1991(H3)	第 26 回全国高等学校総合体育大会（静岡）	出場	刈谷	中村 彰
1992(H4)	第 27 回全国高等学校総合体育大会（宮城）	出場	刈谷	杉田正博
1993(H5)	第 43 回全日本大学サッカー選手権大会	優勝	早稲田	中村 彰

# 第1世代の歴史 1948～1957

## ・昭和23年度（1948年度） 愛知県中学生サッカー大会 優勝

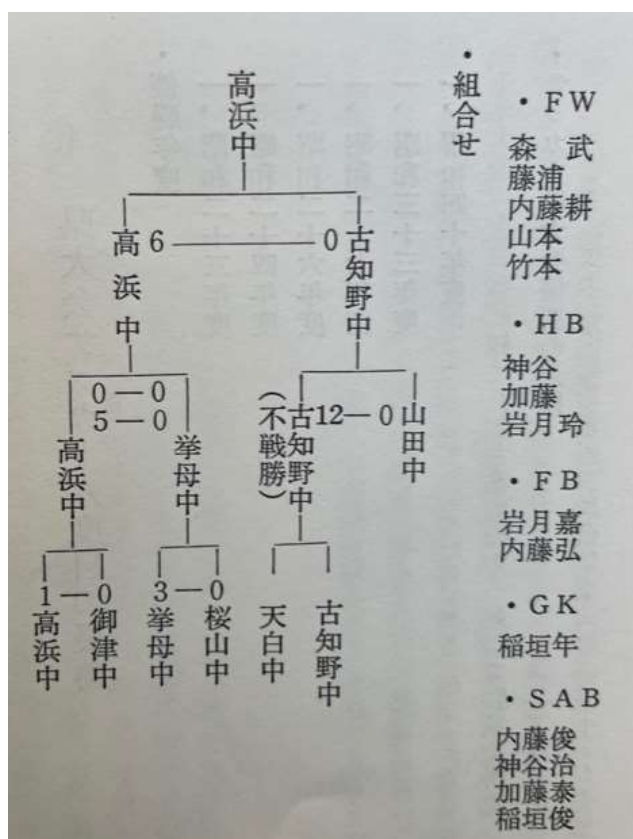
12月5日6時半、高浜港駅集合。近日稀な大霜、遅刻者を心配せるも全員ただちに集合。車中他校チームと会う。色黒く体格勝る。生徒心配そうな顔をしている。午前8時30分愛商着。準々決勝、準決勝に御津中学、拳母中学を破り、午後3時40分優勝戦。

高浜中（6対0）古知野中

相手チームは山田中を12対0で一蹴せる古知野中、全員体躯まされ均整のとれたチーム。球さばき鮮やかにして相当練習せるものの如し。先生、生徒多数応援旗を用意し来り。サイドライン、ゴール後に集合し応援盛んなり。3度の連続出場にて相当疲労の色見えるも全員栄冠を目指し、正に一丸、意気グラウンドを圧す。

試合経過—キック・オフより意気相打ち、体格の劣る高中よくねばり内に意気を秘め敢闘。パスワークよくまるで見違える様なり。2度の試合にてFW自信を持ち、オープンのパスにてきれいに敵バックを割りWL竹本、WR森よりのセンター・リングを、センター・スリーが突っ込み、先ず1点。CHの加藤を中心とせるHBロングシュートを掛け、FWダッシュして得点を重ねる。FWのパスワーク、HBの協力、FBの敢然たるタックル、GKの正しい判断力と相まって高中のプレー満場の賞賛を浴びつつ6対0と引離し完全に優勝する。

〔育友〕6号より）



・昭和24年度（1949年度）愛知県中学生サッカー大会 優勝

初夏の風がグラウンドの上を吹き渡る。刈高のグラウンドにおいての予選を経て、6月26日の優勝戦に進んだ。

予選第1試合、岡崎高師付属との対戦は日ごろの練習の成果を発揮、15対0にて大勝した。第2試合の岡崎南校も3対0で破った。

26日の優勝戦は好天に恵まれ、国体刈谷蹴球グラウンド開場式に試合を行う機会を得た。午前9時半の入場式の後、中学校選手権をめざして強豪豊川中学と対戦した。前半戦敵の出足するどく終始受身の戦を進めるもバック、GK稲垣これを良く防ぎ、25分WRよりのセンター・リングをCF内藤ダッシュして1点を先取し、全員の意気大いに揚がる。後半は高中一方的に試合を運ぶも得点決まらず、最後の2分WL竹本よりのセンター・リングをCF内藤再びダッシュして1点を加え2対0にて試合を終了、昨年の選手権を持続した。

（「育友」18号より）

				・出場メンバー
F	W	岩月	玲二	三造
		藤内	数耕	
		山本	譲	
		竹本		
H	B	神谷	一三	雄治
		神加	藤藤	桂右
		都内		圭俊
		内藤		
F	B	岩月	義昭	弘
		内藤		
GK		稲垣	年男	

・昭和25年度（1950年度）国体に参加して

秋季国民体育大会も最高潮の10月31日、蹴球部は刈谷グラウンドに招かれ刈谷南中と一戦を交えることになった。わが高中蹴球部選手は、元気一杯「いくぞ」の一声とともに13時30分、ホイッスルはなり、激しい雨中戦となった。わが高中は出足がよく刈谷南中をゴールエリアまで押した。しかしなにしろボールがぬかるみにごごろするばかりで、とてもコンディションが悪かった。

高中のチャンスもむなしく0対0でハーフタイムとなり、後半からはポジションも乱れ、ダッシュもなく、刈谷南中におされ、高浜中あやうしと見えたが、キーパーよくこれをつかんだ。ついに高中のチャンス到来、敵ゴール前の乱戦となったがはいらず、この高中対刈谷南中の一戦は0対0で両校引き分けて幕をとじた。

GK	三浦利忠	・出場メンバー
PB	榊原 勤	↑
LB	磯貝保行	
RH	石川 直	
CH	井野房二	
LH	杉浦改三	
RW	桜井俊二	
RI	杉浦秀彦	
CF	神谷瞬夫	
LI	竹内毓宏	
LW	内藤 宏	

・昭和26年度（1951年度） 愛知県中学生サッカー大会 優勝

1月25日及び12月2日の両日にわたって県下の蹴球選手権大会が刈谷グラウンドにおいて行われた。まず第1日目は、1回戦に去年の優勝戦で高中と引分けになった強敵猿投中学を3対0で軽くしりぞけ、部員一同おおいに元気を増した。午後仁川中学を午前中の勢いのまま2対0とかるくさばいた。しかし2日目には六尺近くのFCなど中学生とは思われないような体をし、元気のよい成岩中学にはさすがの高中部員も舌をまくほどであった。部員一同気合の入った一週間の練習をもとに、絶好のコンディションで成岩と対戦した。予定どおり技術のすぐれた高浜と体格にものをいわせる成岩との間で文字通りの激戦が行われ、観衆手に汗を握る間に1対1で延長戦に持ち込み、終始高中が押しはいたが、得点が決まらずタイム・アップの1分30秒前に、前回の試合で手を折ったFC神谷君が、「蹴球は足ですものだから大丈夫だ」といって出場し、ついに彼のシュートがきまり、優勝戦にこまを進めることとなった。あの時の選手一同の喜びはとうていことばで説明できるものでなかった。

思うに試合前の練習後、もう暗くなっていた時だった。部員全員グラウンドの真中に円くすわって作戦をねっていた時、ちょうど高取にあたる上空に、流れ星がどちらにもかたむかず垂直にサーッと流れた。「きっとこれは強敵と対戦した時、同点で引き分けるぞ」みんなが言っていたそのとおりだった。しかし幸いにも部員一同の宿望が神に伝わったのか、あの1点であやうく勝ったのだった。午後の優勝戦で拳母中学を1対0でかるくあしらって伝統に輝く高中サッカークラブの名を再び県下にとどろかした。

（「高中新聞」40号より）

・昭和27年度（1952年度） 愛知県中学生サッカー大会 優勝

初冬の日差しが刈谷グラウンド一杯に立ち込める1月30日、講和条約薬効記念第六回県下中学校蹴球選手権大会の幕は切られた。本校は1回戦不戦勝となり、第二試合は、優勝候補の名声高き拳母西中と大府中との戦勝校すなわち激戦の末1対0で勝利を得た。伝統を誇る拳母西中との対戦である。我々としても第二試合で悲涙を流すことは誠に残念と決死的覚悟で試合に臨んだ。前半1点先取、その間逆襲にピンチもあったが、RH川角君の攻守にわたる男性的粘り強さ、FB加藤、竹内両君のファイン・プレー、それにも増してRI石原君の主将らしいすばらしいドリブルやパスによって切り抜けていった。これらの各員の奮闘があるかあらぬか、1対1の対スコアのままタイム・アップまさに1分前となった。この時、勇猛果敢なLW内藤君の懸命なダッシュに見事な一点が授けられた。

ああ、高中の上に凱歌は上った。

準決勝は、12月7日、刈谷球場で成岩中と対戦した。昨年度の県大会にも苦杯をなめた強豪だけに慎重な試合を期した。伝統ある成岩中学はダッシュよく、またキックも正確であった。しかし高中の善戦すこぶる波に乗り、また成岩中もGK榊原君を恐れているのかの如く攻撃は比較的少なく、かくして決勝への階段をのぼった。

さて午後2時高浜中か刈谷南中か。18校から勝ち残った両虎相顔を合わせる時間も刻々と迫って来た。県下優勝候補の随一にあげられる刈谷南中、練習も部員にみなぎる意気も正に天をつかんばかり。

「キック・オフ」試合は始まった。押しつ押しされシーソーゲームの中に県下中学校蹴球技術の粋を集めてファイン・プレーは随所に展開された。刈谷CHの重厚なプレー、これに対する本校フォワードの果敢な応酬、見るものをして一喜一憂の中にゼッケン10番吉岡君のシュートは見事ゴールのコーナーをかすめて1点を先取した。高中応援団の歓声は期せずして天にとどろいた。攻撃の火ぶたは切って落とされた如く、RW石川君からも、CF加藤君からも猛烈に加えられた。かくして前半は終わった。後半刈谷南中の反撃ものすごく、しばしばピンチに追い込まれたが、CH重光君、RB加藤君の両軍とも目を見はるす

ごいキックにはばまれていった。特にC K杉浦君の文字通りのファイン・プレーは応援の拍手を浴びた。左の得意なL H鈴木君のプレーも光っていた。かくして午後2時55分試合終了の笛は天に鳴り響いた。栄冠は遂に高中蹴球部の上にあがった。かげろうゆらぐ炎天下、みぞれ肌さす寒風の中にうまずたゆまず続けた練習の成果今ここにあがる。

郡、西三、県大会に連続優勝の待望の記録は昭和27年度高中蹴球部において見事達成されたのである。

(「高中新聞」51号より)

この昭和26年、27年愛知県中学生サッカー大会優勝メンバーの多くが、ライバル関係であった刈谷南の選手たちと共に刈谷高校に進学し、昭和29年、30年国民体育大会高校生の部 連覇の偉業を成し遂げることとなる。

・昭和29年度（1954年度） 愛知県中学生サッカー大会 3位

写真・記事募集中



## 第2世代の歴史 1958～1969

### ・昭和33年度（1958年度） 愛知県中学生サッカー大会 優勝

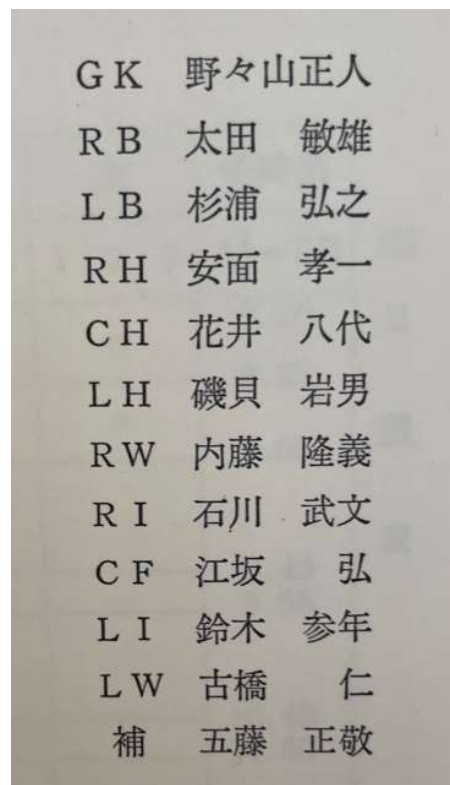
11月2、9、16日の3日間、愛知県中学校サッカー大会が刈谷市市営グラウンドを中心に行われた。雨上りの第1日目、土砂降りの第2日目、そして第3日目は優勝戦を喜ぶかの如く快晴の日であった。

伝統ある高浜中学サッカー部員は最後まで粘り強く戦い準決勝で名門大府中を下した。さわやかな北西の風の中で待望の優勝戦が高浜中对刈谷南中で行われ前半1対0、後半1対1で結局高浜中が刈谷南中を破り6年振りに県大会優勝の栄冠を得た。

（「高中新聞」107号より）

翌年の昭和34年度は、伊勢湾台風の影響により県大会が中止になり、残念ながら当時県下最強と言われたサッカー部の実力を披露する機会はなかった。

GK野々山正人氏が、その後高浜FCを創設する事となる。



### ・昭和35年度（1960年度） 愛知県中学生サッカー大会 準優勝

### ・昭和36年度（1961年度） 愛知県中学生サッカー大会 準優勝

中心選手の中村吉夫氏は、その後、選手として活躍され、当時釜本邦茂氏率いるメキシコオリンピック3位の日本代表にも勝利するほどのチームのエースストライカーであったと伺った。

氏は長年高浜サッカー界のみならず、日本サッカー界の発展、韓国サッカー界の発展、日本と韓国サッカーの友好に多大なる貢献をされた。



・昭和40年度（1965年度） 愛知県大会 優勝

肌を真っ黒に染めた選手諸君、準決勝までは高中ペースで快勝に続く快勝。

決勝戦は8月2日、3日、好天にめぐまれ刈谷南中学校で犬山南部中学と対戦。試合開始後10分くらいは高中ペースで1点入れ、その後、相手の反撃にあい、最後まで押されたがなんとか食いとめて1対0と快勝。

出場チーム中16番目の小さい身体ながら、その非力をうまく科学的プレーに展開させて、パスワークにかけては天下一品のうまさを示して勝利に導いた。ゲーム・オーバーで優勝決定戦のホイッスルを聞いた瞬間、選手、PTA諸氏、教師一同感激の喜びに乱舞する。

この喜びの日まで選手が横山、板倉両教師の指導を素直に聞きいれ、勉強とクラブ活動を巧みに両立させよく努力したこと、また高中が科学的練習法を取り入れて4年目の成果が、県の体育の指定をうけて3年目の努力がこうして過去の輝かしい伝統に結びついて栄える県一の大優勝旗を我々の手中にもたらしたのである。

（「高浜中学校二十年史」より）

9. 杉浦泰(3)	5. 鈴木和(3)	1. 今井 (3)
10. 佐藤 (3)	6. 杉浦兼(2)	2. 神谷広(3)
11. 桜井 (2)	7. 山本 (3)	3. 深津 (2)
	8. 江坂 (3)	4. 宇佐美(2)

内の数字は学年



2021年現在 園児指導杉浦泰秀コーチが中学3年生、ドミー内ヤオトメ深津社長様が2年生時。



## 第3世代の歴史 1970～1979

### ・昭和45年（1970年） 4月 高浜サッカースクール発足

野々山正人の発案で小学5、6年生を対象とした「高浜サッカースクール」を発足させた。会場は高浜中学校グラウンドであった。指導対象は翌年より小学全学年に拡大した。発足と同時に愛知少年サッカーリーグ（三河・知多）に参加した。

リーグ優勝年度

昭和58年度、昭和60年度、昭和62年度、平成4年度

野々山の考えは、第1に「サッカー界の底辺拡大」に共鳴してのことであったが、もう1つの狙いは、「高浜クラブの復活」であった。高浜クラブというのは市内在住のOBを中心としたクラブチームで、活動が不規則で活況かと思うと存在さえ不明となる時期（数年にわたり）があるなど不安定であった。サッカースクールの指導を高浜クラブの選手に行わせることにより、高浜クラブの活動も定期的にするというものであった。開設当初は午前スクール、午後は高浜クラブの練習という形が続いた。サッカースクールとしてリーグ戦や大会参加も行ってきたが、開設から4～5年の頃は指導者の多くが20代前半と若かったこともあり、高浜クラブとしての活動も盛んで県外遠征も多く行われた。

この時期クラブ運営に重要な役割を果たしたのが大原紀幸であった。大原自身はサッカー未経験者であったが、知人を介して高浜FCの一員となり、コーチとしてだけでなく事務処理など精力的にこなし運営面を支えた。また高浜FCにとって枚方FCからの影響は非常に大きい、初期の交流に大きく貢献した。

発足当初は選手兼コーチであった指導者も年齢が上がるにつれ、数年後には選手からコーチへ大半が移行した。



## 【高浜クラブ1期生 横山則夫先輩】

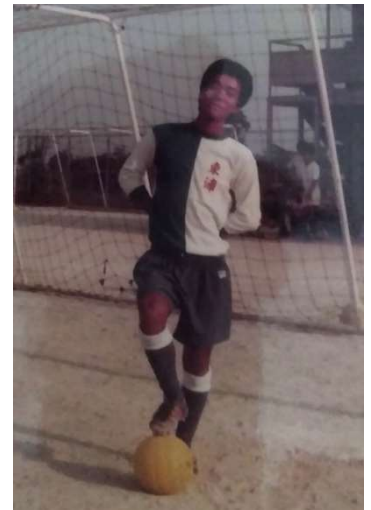
1970年4月 高浜サッカースクールが発足して、初めて入団したのが当時小学6年生だった横山則夫先輩である。

以来、平成2年の現役引退まで、社会人チーム「F Cレオ」のメンバーとして活躍。息子が小学校1年の時にコーチとしてのキャリアをスタート。30歳～43歳までコーチを務める。

サッカーを始めて50年以上、オーバー50の監督兼選手として現在も活躍している。誰よりもサッカーを愛し、生涯スポーツとしてのサッカーをグラスルーツで体現している大先輩である。

50年前にクラブに入団した1期生の先輩が今も身近でクラブを支えてくださっているのが高浜F Cのすばらしいところである。

現 高浜サッカー協会 理事。



F Cレオ時代の横山先輩



シニア0-50の仲間達と





・昭和46年度（1971年度） 愛知県中学生サッカー大会 優勝

楽しかった昨年の西三河大会へ（刈谷市立刈谷南中学校々庭）降雨の中、全力を尽くして戦ったが、三対三で延長戦の末、抽選負け、続く三位決定戦も努力のいかにもなく惜敗した。うぬぼれていたかもしれないが意外の結果にあ然として声もなく、盛んに降り注ぐ雨は、ほおに冷たく感じた。

来年こそ、この屈辱を返上しなければならぬと、怒りにも似た闘志がこみ上げて、この日から来年はどうしても県大会に出場し、優勝を勝ち取る意欲はいやが上にも盛り上がった。

二年生を中心とする新人戦は見事勝ち取ることが出来て、本当にうれしかった。（知立中0-5高浜中）。

以来、顧問の横山、生田両先生の情熱あふれる指導の下、高中伝統のサッカー根性作りに焼けつくような夏の炎天下、冬は寒風にもめげず、チーム・ワークを取りながら特訓は続けられた。あまりの疲労に、家に帰る途中休んで帰ったことも何回かあったろうか……。



先生の計らいで、親善対抗試合がたくさん出来たことで大変収穫があったと思う。

昭和46年度の新学期を迎え、サッカークラブ員は50余名を数えることが出来た。

朝の練習、授業後のクラブ活動は文字通り楽しかった。

準備体操に始まりパス、基本シュート……県大会優勝への闘志は苦しみの中にも、希望に満ち、チーム・ワークも整ってきた。

碧南、高浜地区大会、西三大会、県大会と順調に優勝をと続けることができた。

8月11日、全国大会出場決定の日比野中学校（名古屋市第1位）と県大会会場で優勝を争うことになった。

朝六時高中に集合、出発、クラブ員と父兄応援団を乗せた車は一路一宮市の県営サッカー場へ向かった。

準決勝は一宮中部中学校と戦った。延長の末抽選勝ち。優勝戦は、悪戦苦闘の末、延長となり、延長前半に高中の優勝を決めた見事なゴールへのシュート。高中チームは一層湧きあがった。

後半戦は相手に得点を許すことない1対0の善戦善勝で昨年から心に誓った屈辱を返上することができた。

ここに達成された。夢にまで見た県大会での優勝。ここに昭和27年以来19年ぶり完全優勝ができたのである。（碧南高浜地区、西三河、県大会）これは選手たちだけの力で勝ちとることができたのではない。縁の下のちからもちとなってくれた下級生のクラブ員の力、それに父兄、諸先生がたの応援、顧問の先生の熱心なご指導があったからこそその栄冠を勝ち取ることが出来たのだ。この栄冠はクラブ員全員の誇りであり、また高中の誇りでもあると思う。

この栄誉を得るまでに鍛えた精神力をいつまでも持ち続け、今後余す2学期間の学校生活に活かし、中学生として恥じない生活を送ろうと思います。

サッカー部主将 野々山知久

（前段 向かって一番右 先生の下に座っている生徒が内藤文彦先生です。）

・昭和48年度（1973年度） 愛知県中学生サッカー大会 3位



（余談：後列一番左が柴田昌義先生、その隣が神谷憲久先生）

・昭和49年度（1974年度） 愛知県中学生サッカー大会 3位



・昭和50年度（1975年度） 東海中学生サッカー大会 3位

写真・記事募集中

現在では、解説やサッカー教室など、テレビでもすっかりおなじみのセルジオ越後氏が高中サッカー部員のために来校して下さいました。

高い技術と独特の語り口で、サッカー部員にコーチしていただきました。その甲斐あってか、翌年は、オール三河大会優勝、県大会3位という輝かしい成績をおさめることができた。



主なメンバー

ポジション	名 前	学 年
MF	森島 勉	3
MF	森島 修	3
MF	小林 俊秀	2
MF	田村 恵久	2
CF	四方堂 一治	1



## 第4世代の歴史 1979～1986

### ・昭和54年（1979年）4月 中学生部門（高浜F Cジュニアユース）発足

試行錯誤の10年を経て、クラブとしてかねてよりの懸案事項であった中学生部門を発足。担当は第1期生を小学校より担当していた大林利達を持ち上がった。小中一貫指導の確立と、指導体制も確立した。小学低学年 深津一巳、同高学年 野々山田人、中学生部 大林が責任者となり、それらの下に多くのコーチングスタッフが協力する体制が整った。

また大原の豊田市への転出もあり、主務にコーチ兼任ではあるが杉浦泰秀が就任した。

ジュニアユース部門設立後は中学生部が活動の中心となった。

### ・昭和55年（1980年）9月 第1回高浜クラブ杯全国中学校サッカー大会開催

当時はクラブチームの中学生部における全国規模の大会が存在せず、クラブチームの中学生の励みになればと開催に至った。第1回はプレ大会的に2年生以下で、読売S C、三菱養和F C、横須賀S C、枚方F C、交野F C、刈谷F C、高浜中学校選抜、高浜F Cの8チームが参加。

第1回大会の優勝は交野F C（1 - 0）読売S C



#### 順位結果表

第1位	交野フットボールクラブ
第2位	読売フットボールクラブ
第3位	枚方フットボールクラブ
第4位	三菱養和会サッカークラブ
第5位	高浜フットボールクラブ
第6位	刈谷フットボールクラブ
第7位	高浜中学校選抜チーム
第8位	横須賀野比フットボールクラブ

・昭和55年度（1980年度） 岡崎城西高校 全国高校サッカー選手権大会 3位

1981年1月に開催された第59回全国高校サッカー選手権大会に岡崎城西高校が出場。国立競技場に高浜出身選手が同時に5名も立つ快挙を成し遂げ、全国3位の成績を残した。



スコア

1回戦	岡崎城西	4-1	東福岡
2回戦	岡崎城西	2-1	鹿児島実業
準々決勝	岡崎城西	2-0	八千代松陰
準決勝	岡崎城西	0-1	清水東

高浜出身の出場選手

ポジション	名前	学年
MF	森島 勉	3
MF	森島 修	3
MF	小林 俊秀	2
MF	田村 恵久	2
CF	四方堂 一治	1

2021年現在中学1年の指導をしている四方堂先輩の活躍は目を見張るものがあり、高校1年生ながら背番号10番、センターフォワードのレギュラーに定着、得点を量産し、全国3位の偉業に多大なる貢献をした。高浜の後輩は、テレビで見る四方堂先輩の勇姿を目に焼き付け同郷の英雄に少しでも近づこうと日々練習を重ねたものであった。今でも我々後輩のあこがれの先輩である。

枚方F Cから啓蒙を受けクラブとして指導方針が各コーチに浸透し始めた頃の快挙であった。担当コーチの角谷圭佑は学生であったが情熱家で熱心な指導が実を結んだ。

決勝 高浜（1 - 0）千種

## 【代表のこと】 大林利達 「高浜F C 25年の歩み」より

基本的に代表の関係は「おまえが熟考したいなら好きなようにやれ、後は俺がなんとかする」である。「ああしたい、こうしたい」と代表にいて「駄目だ」と言われた覚えがない。信用されているという自負は勿論あるし信頼に答えたいと常に思っている。

サッカーに限らず、功なり名をとげたりすると新しいことに批判的であったり、あるレベルまで達したりすると妙に押し付けがましい人物がいたりする。野々山正人という人はそういう事とは

無縁である。高浜F Cのスタッフに若い人が多いのは、代表の若い人や新しいことに批評はしても、少なくとも批判的では無いこうした精神によるものだと思う。

成績についても批判されたことは一度もない。ただ何かの大会で優勝したりすると手放しで喜んでくれる。代表とは常に「最強コンビ」を自負しているが、かつてスタッフに時として「最悪コンビ」とか「大迷惑コンビ」と言われたことがある。もう15年も前の古い話だが、当時の小学6年生が愛知県大会の決勝に進出した。ところが担当の角谷が所用で参加できず代理監督をする事になった。代表自ら選手移動のマイクロバスを運転した。代理監督だったが、チームのことは把握していた。ただ相手のチームについては何も知らなかった。特別な事は言わず特別な事もせず普通にやって開始早々先取点を上げた。時間の経過とともに相手はとんでもない強豪と分かってきた。どうりで角谷が相手チームについて余り語りたがらなかったわけだ。とにかく我々「最強コンビ」はその決勝戦を勝った。選手を無事送り届け後は祝宴である。二人でスタートしたが誰彼構わず呼び出し、所用のすんだ角谷も呼び出し、結局その夜は「最悪コンビ」に変身した。当時学生だった内藤文彦など大迷惑をこおむったらしい、その後何度か悪コンビ」を演じた。

ジュニアユース選手権の出場を決めその報告に行った時「そうか、よくやった」と喜んでくれ「お前はチームのことだけ考え、後はおれと杉浦泰秀（主務）に任せろ」と言われた。さらに「よく俺の出番を作ってくれた」と妙な喜び方をされた。それから先はユニフォームやウインドブレーカーを新調し、応援のバスを仕立てたり大張り切りであった。大会後「多少のミスがあった。今度はもっとうまくやるから、もう一度こういう機会を作れ」と言われた。その後は良いところまで行くが、いま一步のところまで約束を果たせずにいる。なんとか代表にもう一度活躍の場を提供したいと思っている。代表が野々山正人という人物だったから今まで続けてこられた事だけは間違いない。





・昭和56年（1981年） 7月 愛知県クラブ中学生選手権 優勝 JY1期生

大磯F C中村允昭氏（東海クラブジュニアユース連盟委員長）の呼び掛けに、わずか5チームであったが県協会登録チームが集い県選手権を行った。

他チームの存在さえ未知の時代に県選手権が行えるということは朗報であった。

決勝 高浜（3-2）千種

・昭和56年（1981年 8月） 第2回高浜クラブ杯全国中学生サッカー大会 優勝 JY1期生

前年第1回大会を開催し、参加チームから好評を得た。参加チームの大会に対する積極的な姿勢に主管者として勇気づけられ、継続的開催に意欲をもった。また、開催時期、大会期間、対象学年等を検討し、第2回以降は8月開催を決定した。

前年参加チームに城内F C、高槻F Cが加わり、以後年を重ねるごとに参加チームが増えた。16チーム（ヤマハ、日産F C、小山F C、愛知F Cなどが参加）

第2回高浜クラブ杯 優勝 高浜F C（1-0）枚方F C

クラブ創設12年目にして、高浜フットボールクラブジュニアユース1期生が、初の全国クラブナンバーワンの栄冠を勝ち取った瞬間であった。

主なメンバー

学年	氏名	学年	氏名	学年	氏名
3	芝田 啓二	3	門脇 博志	3	深谷 信之
3	深谷 英志	3	杉浦 英樹	3	杉浦 智幸
3	小塚 隆志	2	神谷 武慎	2	前田 穂積
2	酒井 良成	2	岩月 高志	1	内藤 紀之
1	小沢 淳彦	1	杉浦 正道	1	北尾 達郎
1	杉浦 誠二	1	高木 幹男	1	神谷 林到
1	内之倉 浩				



・昭和60年（1985年） 9月 愛知県クラブ中学生選手権 優勝 JY5期生

愛知県内のクラブチームトップ決定する大会が開催された。主将C B福井、MF岩城を中心に良くチームがまとまり、3年生にとっては中学最後の大会で見事優勝を果たした。また3年生の森川、後藤、井上は、はるばる大府市共和から高浜F Cに入団し優勝に貢献した。



主なメンバー

学年	氏名	学年	氏名	学年	氏名
3	福井 康光	3	岩城 寛之	3	宮城 好公
3	井上 真一	3	後藤 公孝	3	森川 紘光
3	神谷 達	2	加藤 正浩	2	鈴木 竜宏
2	中村 稜志	2	矢野 裕一	2	中村 仁
2	杉浦 政彦	2	黒柳 良行	2	斉藤 弘樹
2	神谷 英亮	1	神谷 貴弘	1	野村 茂司
1	倉宮 裕二	1	門脇 真次	1	神谷 昌孝
1	丹後 良治				

・昭和61年（1986年） 8月 第7回高浜クラブ杯全国中学生サッカー大会 準優勝 JY6期生

第2回大会1期生の以来の全国クラブナンバーワンをめざし、日々練習に励み大会に臨んだ。

準決勝 高浜高校グラウンド 全日空戦 左S B中村稜のフリーキックからC F加藤のヘディングシュートが決まり1-0で辛くも決勝に駒をすすめた。決勝の相手は愛知F Cと常に県内で凌ぎを削っているライバルクラブ同士の戦いとなった。高浜中学校グ



ランド、前半早い段階で先制を許し苦しい展開が続く、C F加藤を中心に猛攻を仕掛けるが、守り切られ高浜カップ最終大会の賜杯を得る事はできなかった。

第7回高浜クラブ杯 優勝 愛知F C（2-0）高浜F C

中心選手の加藤正浩君は、その後、静岡学園高校に進学し、横浜マリノスでプロ選手として活躍することになる。



・昭和61年（1986年）8月 第1回全国クラブジュニアユース選手権 東海代表 JY6期生

高浜クラブ杯開催中に何年にも渡り、審議されたクラブジュニアユース連盟も組織され、日本サッカー協会主催の大会として長野県白馬村で、全国各地の地区予選を勝ち抜いた16チームで開催され、高浜FCも東海地区代表として出場した。高浜FCでは、同選手権を高浜クラブ杯の発展型ととらえ、混乱を避けるため第7回をもって高浜クラブ杯の開催を終了した。



安佐南戦 試合開始直後から一進一退の攻防を繰り広げ、遂に2-1と安佐南リードのまま後半ロスタイム MF 鈴木のドリブル突破からキーパーの頭上を越すループシュート、審判のホイッスルがグラウンドに響く。「よし！ 同点 延長戦だ！」しかし・・・無常にもホイッスルは試合終了のものと判定された。写真は敗戦直後に撮影した集合写真である。大林先生、引率に来ていただいた1期生芝田啓二先輩（当時愛知学院大20才）応援に駆けつけてくれた後輩・お父様、お母様、そして選手達、クラブの関係者が悔しい思いを共有した白馬の夏であった。

主なメンバー

学年	氏名	学年	氏名	学年	氏名
3	加藤 正浩	3	鈴木 竜宏	3	中村 稜志
3	矢野 裕一	3	中村 仁	3	杉浦 政彦
3	黒柳 良行	3	斉藤 弘樹	3	神谷 英亮
2	神谷 貴弘	2	野村 茂司	2	倉宮 裕二
2	門脇 真次	2	神谷 昌孝	2	丹後 良治
1	中村 彰	1	新居 学	1	石川 欽也
1	石川 貴之	1	石川 純一	1	木村 邦雄
1	内藤 英稔	1	川角 一	1	杉浦 義章
1	斜木 健	1	田中 大蔵	1	赤塚信仁

中学校、クラブの垣根をなくし、ジュニアユース世代の愛知県トップを決定する大会が開催された。順当に勝ちすすみ、決勝戦は瑞穂陸上競技場で名古屋の強豪 豊正中学校との激戦の末惜しくも敗れた。

豊正中学校（2 - 0）高浜 F C



第4世代は、ジュニアユース1期生の全国クラブチーム頂点という輝かしい成績から6期生のあともう1歩というところで頂点を逃す悔しさも味わった世代であった。

## 第5世代の歴史 1987～1992

- ・昭和63年（1988年）8月 第3回全国クラブジュニアユース選手権 東海代表 JY8期生
- ・昭和63年（1988年）9月 第2回コカコーラカップ愛知県中学生サッカー選手権 3位 JY8期生

主なメンバー

学年	氏名	学年	氏名	学年	氏名
3	中村 彰	3	新居 学	3	石川 欽也
3	石川 貴之	3	石川 純一	3	木村 邦雄
3	内藤 英稔	3	川角 一	3	杉浦 義章
3	斜木 健	3	田中 大蔵	3	赤塚信仁
2	杉本 幸倫	2	杉田 正博	2	斜木 敦
2	杉浦慎一郎	1	神谷 直人	1	江川 直文
1	向井秀喜	1	杉浦 隆司	1	森 誠司
1	安井 辰夫	1	石川 啄也	1	杉浦 晃三
1	若林 勇	1	杉浦友和		

中心選手の中村彰君は、その後、刈谷高校・早稲田大学へと進学し、川崎フロンターレでプロ選手として活躍することになる。



昭和63年（1988年）8月 高浜クラブ杯中学1年生大会 JY10期生

「この大会が終わると小学生から中学生へ変わっていく」と参加チームの方々から、好評をいただいている。谷間になりがちな中学1年生に励みになればと開催。



平成元年（1989年） 8月 第4回全国クラブジュニアユース選手権 東海代表 JY9期生

平成元年（1989年）12月 高円宮杯 第1回全日本ジュニアユース選手権大会 3位 JY9期生

平成元年、クラブ、中学校の枠を取り払った表記大会が開催され東海地区代表として出場し、第3位という好成績を修めた。戦後 昭和23年 焼野原から始まった高浜サッカーの歴史は、42年の歴史を積み重ね、高浜フットボールクラブ創設20年目に遂に全国3位という輝かしい成績を収めた。

#### 主なメンバー

学年	氏名	学年	氏名	学年	氏名
3	杉本 幸倫	3	杉田 正博	3	斜木 敦
3	杉浦慎一郎	2	神谷 直人	2	江川 直文
2	向井秀喜	2	杉浦 隆司	2	森 誠司
2	安井 辰夫	2	石川 啄也	2	杉浦 晃三
2	若林 勇	2	杉浦友和	1	中村 光伸
1	清水 玄太	1	樫尾 啓二	1	鈴木 将大
1	早川 仁宗	1	杉浦 浩二		



第1回全国クラブユース選手権試合結果







## 【大会をたのしんだ】

高浜F C 大林利達 「高浜F C 25年の歩み」より

改めて言うまでもなく、今大会が実施された意義は極めて大きい。クラブチームの一員としては、多くの人々に観戦していただける機会が増え、「クラブチームも悪くないじゃないか」と思っていただけばうれしい。高浜F Cとしては、記念すべき第1回に出場出来たことはクラブの大きな財産になるだろう。まだこの種の催しが「クラブと学校の対決」という目で見られがちだが、ごく自然に「第3種のチャンピオンシップ」という見方がされるようになった時、日本のサッカーも一歩前進するのでは、と思う。

もう「クラブだ、学校だ」と言っている時代ではないというのが私見だが、高浜F Cの所在する愛知県では昭和56年にクラブ連盟が組織された時から、クラブ、学校の上位チームの対戦という形式の大会が実施され、62年度よりクラブ、学校を問わず第3種登録チームによるトーナメントが実施されている。

我々は優れたリーダー（愛知県中学生連盟）に従って活動しているだけだが、他県の状況はどうであろうか。従って今大会においても学校チームとの対戦だからと意識過剰になることもなく、単に「強豪チームとの対戦」という（おそらく選手も）自然な気持ちで大会に臨めたのも好成績（と思うのだが）の要因のひとつだと思う。

さて準決勝で東海第一中に完敗したものの、愛知県予選に始まった今大会をもっとも楽しんだのは高浜F Cではなかったかと思う。

クラブ、学校の上位2チームで行われた県大会では、クラブチーム1位として出場し準決勝を延長の末2-1、決勝戦は1-0の辛勝。4県の代表で行われた東海大会の準決勝は3-2で逆転と思ったら、終了直前に同点にされ延長も決着がつかずPK戦で辛うじて勝ち、決勝は0-1で敗れたものの、東海地区の出場枠が2ということで本大会への出場となった。

本大会の1回戦の応神中戦は前半1-0とリードしたが、後半は1-1、2-1、2-2、3-2というスコアの流れ。久我山中との準々決勝は前半0-1とリードされたが、後半2-1と逆転。逆転ゴールは終了3分前。「ツキも実力のうち」と言うがツキはツキである。実際何度ツキに救われたことか。ただ、ここまでやれたのは多少の実力があつたからかな、とも思う。

もうクラブだ、学校だ、という時代ではないと書いたが、チームとして見れば高浜F Cは典型的なクラブチームである。それも読売クラブに代表されるような組織も施設も充実したクラブではなく、人口は3万人にも満たない小さな町の、選手の質も量もたかが知れた大した組織力も自前のグラウンドもないささやかな「町のクラブ」の典型である。

言わばないないづくしのようなクラブや選手であるが、「周りを見ろ、頭を使え」と気長に言い続けてきた。機敏でない子が、ボールを止めて周りを見回す。相手のプレッシャーはきつくピンチを招く。私はもう慣れっこだが、観戦の父兄は「心臓が悪い。胃が痛い」と嘆く。それでも時として、ベンチいる私が下を巻くほどの展開を見せる。約束事をなぞったり、あてずっぽうではなくに良い判断をするからだろう。強豪チームがお手上げになる瞬間である。勝負にこだわりすぎて生じる損失を恐れ、負けてもよいと思わないが、勝負には必要以上にこだわらずにきた。

もし私にコーチとしての取りえがあるとしたら、自分本来の性格である短気で飽き性なところを「気長に、気長に」と努めていることぐらいなものだろう。そうやって育ててきた子供たちである。サッカーは体が小さく足が遅くても、ある程度はやれる。改めてサッカーというスポーツは、見るものもやるものも楽しいスポーツだな、と実感した。

今大会に出場しての収穫はいくつかあるが、最大の収穫は自分たちの進めてきたサッカーにそう大きな間違いはなかったという確認が出来たことだと思う。

高浜F Cのようなクラブにとって、この次この大会に出られるのはいつのことかと考えると気が遠くなる

が、クラブ、学校を問わずこの大会が大きな目標になったことは間違いないと思う。

大会関係各位には、今回のご尽力にお礼申し上げますとともに、恒久的に開催していただけるようお願いして拙文を終えたいと思う。

(財)日本サッカー協会機関紙 サッカー 1990年3月号

・平成2年（1990年度）テレパカップ（神戸サマーフェスティバル）優勝 JY10期生

神戸FCのお招きで表記大会中学生3年生部に参加。強豪相手に決勝に進出し、神奈川県クラブ選抜（日産FC中心）と対戦し、延長でも決着がつかず両者優勝となった。

決勝 高浜（0-0）神奈川県クラブ選抜

主なメンバー

学年	氏名	学年	氏名	学年	氏名
3	神谷 直人	3	江川 直文	3	向井秀喜
3	杉浦 隆司	3	森 誠司	3	安井 辰夫
3	石川 啄也	3	杉浦 晃三	3	若林 勇
3	杉浦友和	2	中村 光伸	2	清水 玄太
2	樫尾 啓二	2	鈴木 将大	2	早川 仁宗
2	杉浦 浩二	1	石川 隆之	1	沓名 陽二
1	佐久間 研治	1	野々山 和弘	1	神谷 貴志
1	上田 耕三	1	古橋 智哉		大橋 正浩
1	野々山 幹夫				

・平成3年（1991年度）9月 第5回コカコーラカップ愛知県中学生サッカー選手権 3位 JY11期生

主なメンバー

学年	氏名	学年	氏名	学年	氏名
3	中村 光伸	3	清水 玄太	3	樫尾 啓二
3	鈴木 将大	3	早川 仁宗	3	杉浦 浩二
2	石川 隆之	2	沓名 陽二	2	佐久間 研治
2	野々山 和弘	2	神谷 貴志	2	上田 耕三
2	古橋 智哉	2	大橋 正浩	2	野々山 幹夫
1	原野真司	1	角谷 直剛	1	大林 一樹
1	浅岡 孝充	1	竹内 薫	1	矢野 祐輔
1	古橋 規弘	1	山下 洋平	1	尾碇 淳一
1	神谷 武志	1	高橋 直樹	1	石川剛史
1	神谷 紘行				





・平成4年（1992年度）8月 第7回全国クラブジュニアユース選手権 東海代表 JY12期生

主なメンバー

学年	氏名	学年	氏名	学年	氏名
3	石川 隆之	3	沓名 陽二	3	佐久間 研治
3	野々山 和弘	3	神谷 貴志	3	上田 耕三
3	古橋 智哉	3	大橋 正浩	3	野々山 幹夫
2	原野真司	2	角谷 直剛	2	大林 一樹
2	浅岡 孝充	2	竹内 薫	2	矢野 祐輔
2	古橋 規弘	2	山下 洋平	2	尾碓 淳一
2	神谷 武志	2	高橋 直樹	2	石川剛史
2	神谷 紘行	1	稻吉 裕士	1	川角 論司
1	安井 悟	1	平松 崇	1	加古 武史
1	浅井 洋	1	神谷 真吾	1	野々山 剛二
1	江端 和将	1	杉浦 誠	1	神谷 幸志



付表-1 高浜クラブ杯全国中学生サッカー大会

開催年	回	優勝	スコア	準優勝	3位	出場数
1980	1	交野 F C	1 - 0	読売 F C	枚方 F C	8
1981	2	高浜 F C	1 - 0	枚方 F C	読売 S C	10
1982	3	交野 F C	2 - 1	読売 S C	枚方 F C	12
1983	4	刈谷 8 1	4 - 0	読売 S C	神戸 F C	12
1984	5	枚方 F C		読売 S C		12
1985	6	神戸 F C	0 - 0 (PK 5 -4)	読売 S C	三菱養和 S S 高槻松原 S C	16
1986	7	愛知 F C	2 - 0	高浜 F C		16

※第6回大会は、高浜クラブ杯兼日本クラブジュニアユース選手権（リハーサル大会）として開催。

改訂履歴

初版	2022年4月1日	
----	-----------	--



